～まちの話題～

天まで届け

子どもたちが見守る中で空に舞う“ 大凧 ”

１月18日、英比小学校の児童たちが同校教諭の有志で作った「大凧」の凧揚げを観賞しました。

製作には3週間かかり、「英比」の文字が力強く描かれ、縦2.9メートル横2.2メートルの「大凧」に仕上がりました。

凧揚げは小学校近くの田んぼで行われ、凧が風に乗って勢いよく大空に舞い上がると、子どもたちから「すごい」と一斉に声が上がりました。たこは縁起物。卒業式には体育館に飾り、子どもたちの巣立ちを祝うそうです。

植地区の「出世凧」

また、１月23日には植地区で「植凧祭り」が行われ、権現山南農道一帯で、こちらも自慢の手作り凧が空に舞いました。

この日は、平成22年生まれの子どもの名前が書かれた「出世凧」と呼ばれる「阿久比ごんぎつねクラブ」製作の大凧も揚がりました。会場に集まった多くの親子連れらは、凧揚げを楽しみました。

1,060人がマラソンに参加

勢いよくスタートを切る選手たち

第33回阿久比町健康づくりマラソン大会が、1月23日阿久比スポーツ村陸上競技場周辺コースで行われました。町内外の1,060人が参加して、健康づくりに汗を流しました。

競技の部、優勝者は次の皆さんです。（敬称略）

小学生男子（４年～６年）2.2㌔佐藤倭、小学生女子（４年～６年）2.2㌔猪塚真希、中学生男子３㌔高野育実、中学生女子2.2㌔鈴木智子、一般男子（高校生以上）３㌔片岡哲朗、一般女子（高校生以上）2.2㌔齊藤彩乃、一般（高校生以上）５㌔ 三浦健嗣

笑顔で息子のゴールを待ちます

講演を行う松野明美さん

１月29日、エスペランス丸山で、福祉講演会（町社会福祉協議会主催）が開かれ、元オリンピックランナーの松野明美さんが「人生は一番ではなくてもいい～生まれてきてくれてありがとう～」と題して、講演を行いました。

松野さんの次男はダウン症です。子どものことを一生隠しておこうと思った時期もあったそうですが、世間に公表してからは肩の荷が下り、今では「我が子を自慢する世界一幸せな母親」と胸を張ります。最後に「時間が掛かっても、笑顔で息子のゴールを待ちたい」と力強く子どもの成長に期待を込めました。

また、福祉団体「町手をつなぐ育成会」と「こんぺいとう」の発表も行われ、参加者は障害者福祉に対する認識を高めました。